

「HELPカードが出来るまで」 災害緊急時の対処法 ～ 障がいのある子と共に ～

石川県肢体不自由児・者父母の会連合会
副会長 永井 一郎

はじめに 「HELPカードが出来るまで」

平成 16 年以降、身体障害・知的障害・もう・ろう等の養護学校に在学する親たちが集まり障がいの垣根を越えて、力を合わせて子どもの為に何か出来ないかと話しあう機会を重ねてきました。私達親は、何に不安を感じているのか？に関して意見を出しあいました。

日々のライフスタイルや教育・療育・医療のこと、将来のことなど意見はたくさん出ましたが、突き詰めて考えていくと一つのこと意見は集中しました。それは、「災害」でした。災害はいつどこで起こるか分かりません。災害時や緊急時など、子ども達が「不測の事態にどう対応するか」ということでした。そのような思いにかられたのも、『阪神・淡路大震災（平成 7 年 1 月 17 日）』から 9 年経過して発生した『新潟県中越地震（平成 16 年 10 月 23 日）』あたりから、国内外の様々な所で大きな災害が頻繁に起こり、テレビや新聞から知る避難状況を見て、子ども達の置かれる立場に不安を感じてきたからだと思います。

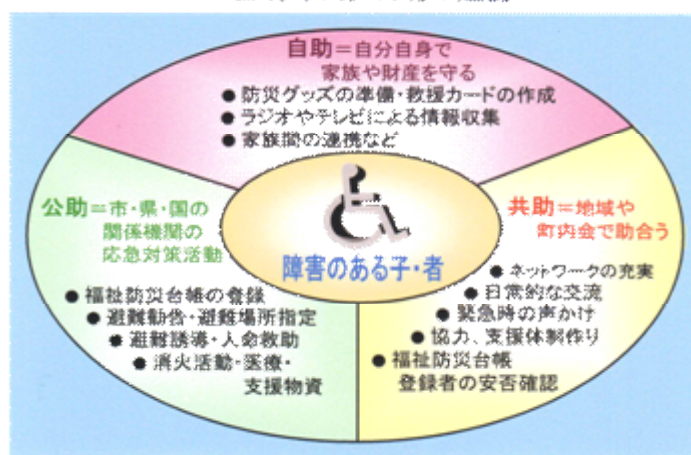


私達が暮らしている石川県は比較的穏やかな場所で、今まで雪害以外の災害とは無縁と感じておりました。この地に大きな災害は起こるとは思えず、まだ今のような緊迫した気持ちではなかったと思います。それでも、私達はいつどこで起こるか分からない自然災害に対して危機感をもち、「HELP カード」作成に取り組み始めました。

まず私達は災害時の対策について調べ始めました。災害についてあらゆる視点から考えてみると、三つの行動が大切であることがわかりました。自分や家族は自分達自身で守る『自助』、地域の方と協力してお互いに助け守る行動である『共助』、行政機関による人命救助・応急対策や電気・ガス水道などライフラインを早期復興する『公助』です。この3つの連携が、被害を最小限に抑える、大切な行動の基盤だと言うことがわかりました。

そのことから、私達は、自らを守る『自助』の部分として、障がいがある子どもや大人の為の災害時の備蓄について調べたり、自分達で想像力を働かせ、実際シュミュレーションビデオを作ったり、緊急時に役立つ「緊急支援カード」の提案や、緊急時に子どもと一緒に避難する為の方法・手段などを考えました。

自助・共助・公助の連携



『共助・公助』の部分としては、人と人とのつながりの大切さを再認識いたしました。そして、地域によっては災害時の備蓄品に、かなり差があることがわかりました。私達のものの中には、非常食であるカンパンなどはとても食べられず、水さえ普通に飲めない子ども達がいることや、車椅子での簡易トイレ使用が大変不便なことなど、障がい者の立場から、メンタル面での苦痛も含め、備蓄体制や避難所の整備など行政には細かな配慮をお願いしております(金沢市では、私達父母の会を交えた協議会での話し合いの結果、平成24年度から福祉避難所を指定して頂く予定です。)。このことは、体の弱いお年寄りや、寝たきりの方などの、要援護者と呼ばれる方達にも共通する大切なことだと思えます。もっと社会に対して、障がいのある方や支援の必要な方々の存在を知ってもらいたいと考えました。この3つの連携を確立し、皆さんが求めている形に整えていけたらと思っています。

この書籍で、私達の思いを読んで頂けることが、障がいのある我が子を守ることへの大切な1つの活動だと考えております。

災害時の現状の厳しさを様々な観点から勉強した私達でしたが、実際のところ、親同士の話の中でさえ、

「私の子どもは、言葉が話せないからどうなるのかな？」

「災害で起こる事故で親の意識がなくなっていたら、どうする？」

「うちの子は歩けないけど、親がいない時、誰が助けてくれるのかしら？」などいろいろな課題・心配がありました。

そこで、我が子が一人である時や、親の身に何か起った時に、我が子が自らを説明出来る物を何か身に付けていれば適切な対応を周囲に期待できるのでは？と考え、災害時に障がいのある子ども達の命を守る一つの手段となるよう「HELPカード」を作成することにしました。このカードは、災害時はもちろん、病気や怪我などの緊急時にも身元確認手段のカードとして、役立てることも目的に希望者を中心に作成し始めました。

ちょうどそのような時、今までに経験したことのないような大きな地震がこの石川県に起ってしまいました。それは、平成19年3月25日早朝、石川県輪島市の西南西沖約40キロの日本海沖で発生し、石川県民を震えあがらせたマグニチュード6.9の『能登半島地震』です。さらに、平成20年7月28日138ミリ/時間の集中豪雨で、石川県金沢市の中心部が55年ぶりに浸水被害に見舞われ、自然災害の怖さを目の当たりにしました。私達には、まだ記憶に新しい出来事です。

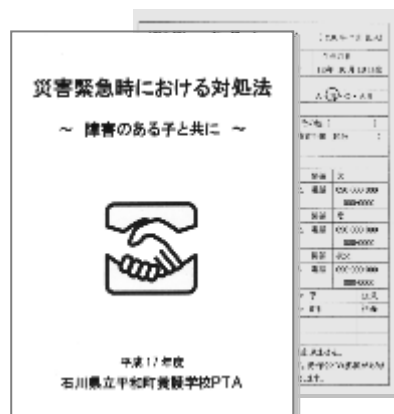
かつて私達は『新潟県中越地震』を経験されたご家族の話聞いた時、切実な思いにかられていましたが、地元石川県の地震を体験されたご家族の状況と精神状態をお聞きし、さらにその思いを強くしました。私達は一刻も早くこの取り組みを進めていかなければならないと感じ、このカード運動を一つステップアップさせ、石川県肢体不自由児協会(石川県肢体不自由児・者父母の会連合会)に窓口を置き、新たなスタートをきり、「HELPカード」プロジェクトチームを立ち上げ、基盤を整えながら障害のある方には「HELPカード」を持ちましょう！と呼びかける普及活動を始めたのです。そして、一人でも多くの社会の皆さんに、このカードの存在を知っていただき、合わせて障がい者への理解を求めていく方針で、一歩踏み込んだ本格的な活動を開始したのです

・災害緊急時の対処法 ～障がいのある子と共に～

1. 防災マニュアル

旧石川県立平和町養護学校PTA活動の中で、地震災害中心にした防災マニュアルを作成しました。

様々な防災マニュアルが作られています。このマニュアルでは、障がいのある人やその家族にポイントを置いたものになっていて、お薬をはじめ大切な持ち出し品の提案など障がい者向けの内容になっています。また、地震による津波などの注意、運転中の注意事項なども書かれています。



2. 災害時の対処法

(1) おんぶの仕方

災害発生直後は慌てず、まず子供と共に身の安全を確保します。自宅の倒壊や火災の危険のある場合は避難します。



避難場所までの経路にも落下物や建物の倒壊が考えられ、車椅子やバギーを使っての移動は大変困難です。

体の大きくなった子供は抱っこしづらく、おぶった方が行動しやすいのではないかと思います。手作りしたおんぶ紐を使い子どもをおんぶしてみました。

しかし、子どもの体重、障がいの程度、身体的状態（緊張や硬直）、母の体格など、細部にわたり課題がありました。

(2) 階段の降り方



緊急時には、エレベーターが使えないことが想定されます。階段を使用しての避難をシミュレーションしてみました。

子どもをおぶった状態で、階段を降りることは大変危険を伴います。

反り返りやすい子どもをおんぶした時はバランスを崩したり、子どもの足が傷つく可能性などを避けるため、階段の壁に向かって手すりを持ち、横歩きで中腰になって階段を降り

ます。

子どもが履いているブーツは、北海道の障がいのある子どもの母親達が工房を立ち上げ作ったものです。基本は防寒ですが、外からの衝撃から足を守るため、つま先部分には特殊な加工がしてあります。子ども達の足は自由になりやすく無防備です。特に、足を突っ張る子はブーツや靴などを履かせ足を保護する事は大切なことです。



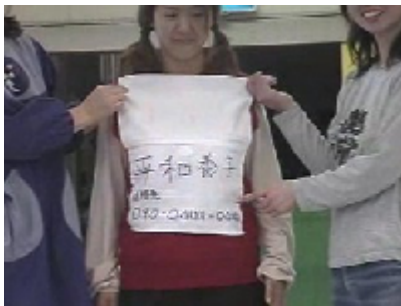
(3) 「HELP カード」や迷子札の必要性

《 HELP カード 》



混乱する状況の中で、正確に自分のことを伝えるのは可能でしょうか？誰でも怪我やパニック状態の時は不可能であると思います。特に言葉を話すことが出来ない障がいのある子や人達は緊急連絡先、持病や日頃飲んでいる薬、病気発生時の状態や対処法などが記載されている「HELP カード」を携帯することで、適切に対応や処置をしてもらうことが出来ると考えています。

《 迷子札 》



人の混雑する避難所で動き回ってしまう子に対しては、迷子にならないように、ベストなどに縫い付けたゼッケンのような迷子札を付けることも考えておきたいです。一枚布をめくると名前や連絡先が書いてあります。誰でも一目でわかる形なので、少し抵抗がありますが、混乱時の子どもの安全な保護のためはとても役に立つと考えています。

(4) 防災グッズ

障がいのある子どもや人達の、大切な防災グッズ(持ち出し品)を紹介いたします。一般の方にも使える防災グッズです。

阪神・淡路大震災の時、緊張のため喉が渇き、飲料水が不足している状況の中では、一般的にパンよりお粥のような喉通りの良いものが食べ易かったと聞きました。私達の子どもにもお粥やゼリーなどが重宝します。忘れず用意したい物です。

子ども達の多くは、てんかんや喘息などの薬を飲んでいます。避難所の環境が悪いと持病が発生したり悪化する場合があるので、常用薬を余分に病院から処方してもらいましょう。万一の時のため、処方箋のコピーを用意しておきましょう。

障がいのある人の中には、体温調整が出来ない人がいます。体温が下がり体力の消耗が激しくなり、体調不良や持病発生につながるので防寒シートを用意しましょう。

車椅子の人は、避難所の簡易トイレが狭くて使いにくいので携帯トイレなどが便利です。

便利な食品



大切な常用薬



防寒シート



(5) ネットワークの必要性



災害時は、障がいのあるなしに関わらず、全ての人の立場は同じです。

「みなさん！最低限自分のことは自分で守り、避難する対策を日頃から考えておいてください。そして助け合ってください。」と消防署員の方が話されました。

地域においては、隣近所との日頃のコミュニケーションは、災害時にも大変役に立つはずで、そして、いざという時は人に助けを求めたり、お願いする勇気も必要です。

以上が、旧平和町養護学校PTA活動で災害時の対処法を研究した内容です。被災した経験のない私達が、精一杯考えてシュミレーションしてみてもわかったこと、気付いたことも多かったけれど、被災経験のある人からもっと良い方法を教えて頂きたいです。

。「HELPカード」について

1. 障がいのある人が携帯する石川県内同一形式の「HELPカード」の作成

いつ何処で起こるか分からない災害に不安を感じた私達は、災害時や緊急時など障がいのある子や人達の不測の事態にどう対応するか悩みました。

「HELPカード」を身に付けていれば、適切な対応を周囲に期待できると考え、災害時に命を守る一つ的手段として、我が子に一日も早く携帯させたいと感じました。

そして、子ども達に限らず障がいのある人達の幸せを願い、社会の皆さんに広くご理解やご協力を頂けるように、平成20年度より、石川県肢体不自由児協会を窓口とし「HELPカード」の作成や普及活動に取り組んできました。地元のライオンズクラブ様やロータリークラブ様から資金援助を受け、金沢市医師会様の協力も頂きました。更に、平成22年度より金沢市（行政）様が私達の活動や取り組みに関心と理解を示して頂き、「HELPカード事業」として、金沢市在住の該当者においてカード作成を一手に引き受けてくれることになりました。金沢市以外の障がいのある人達の「HELPカード」は、石川県肢体不自由児協会が作成をしています。カードのマークは、旧石川県立小松養護学校の保護者が作成したオリジナルデザインです。商標登録しております。マークの意味は、人と人が支え合っているデザインで、またその形がハート型になっており、心が通じ合う意味をもっています。その下のアルファベットで「ISHIKAWA」とありますが、このカードを石川県内に広めていきたいとの思いから「ISHIKAWA」としました。今後、このISHIKAWAの部分は、「KANAZWA（金沢）」や「KOMATSU（小松）」、「UTINADA（内灘）」、「NANA O（七尾）」など、地域により根付くことを考慮し、各自治体名を明記されて使って頂きたいと願っております。そして、このロゴマークを石川県内はもちろん、県外の方々にも知って頂き、HELPカードが全国に普及し、カード所持者には



何らかの障がいがあり、災害時には助けが必要であることをわかってもらえることを願っています。カードは名刺サイズで作成し、パスケースに入れて携帯しやすいようにしました。私達、親の有志で結成した「HELPカードプロジェクトチーム」のメンバーが一枚一枚、すべて手作りしています。

2. 「HELPカード」の記載内容と形式



【カード表紙面の説明】
 カードは名刺サイズで携帯に適しています。カード表紙のオリジナルデザインのロゴマークは商標登録されています。地名の部分は、肢体不自由児協会で作成された人は「ISHIKAWA（石川）」、金沢市で作成された人は「KANAZAWA（金沢）」と書かれています。

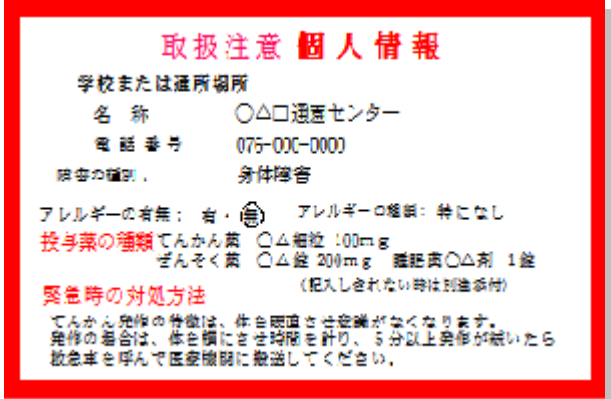
【裏表紙面の説明】
 カード裏表紙には、カードの所持者が障がい者である事、119番や緊急連絡先への連絡や避難支援協力のお願いが書いてあります。取り扱いの注意事項が書かれています。

HELPカードの注意事項
 1. このカード所持者は障がいがあります。
 2. このカード所持者が体調を崩してしたり、傷害を自っている場合は、お手数でも119番および緊急連絡先にご連絡ください。
 3. このカード所持者が災害発生により被災した場合は避難支援をお願いします。
 4. このカードには個人情報に記載されています。取り扱いには十分ご注意ください。また、拾得された方は、緊急連絡先に迷わずにご連絡ください。



【カード情報面説明】
 この面には、緊急時の連絡先などの情報が記載されています。
 ・本人の顔写真・氏名・生年月日・血液型
 ・保護者などの緊急連絡先
 災害等に被災した場合、身分証明の役目もはたします。

【カード情報面説明】
 このカードは、通所場所やアレルギーの有無、服用薬など個人情報と、緊急時の対処方法の記載があり重要な情報面です。情報の記載は必要最小限に絞り込み、第三者へ提供できるように配慮してあります。記載の有無は、申込者の任意で決定できます。



3. 「HELP カード」の申請書・記入シート記載内容

記入シート	
個人情報	氏名、性別、年齢、住所、電話番号
緊急連絡先	緊急連絡先、住所、電話番号
アレルギーの有無	アレルギーの有無
服用薬	服用薬の種類、量、回数
緊急時の対処方法	緊急時の対処方法
顔写真掲載承諾	顔写真掲載承諾
ラミネート加工の有無	ラミネート加工の有無

個人情報については取り扱いを慎重に進めました。

依頼者には「HELP カード」の作成の依頼書と登録申請書を提出してもらい、データ入力ミスを防止するため記入シートに必要な事項を書いてもらいました。

記入シートには、氏名・生年月日・血液型・性別・緊急連絡先や続柄・通所場所・アレルギーの有無と種類・服用薬・緊急時の対処方法・顔写真掲載承諾・ラミネート加工の有無を書き込むことが出来ます。

個人情報が書き込まれた記入シートは、FAX送信は受け付けず、郵送のみ受け付け可能とし作成にあたりました。

「HELP カード」作成依頼者が記載するシート

4. 「HELP カード」の活用と周知活動

私達の「HELP カード」が地元新聞に掲載され紹介されました。新聞記事のタイトルは『災害時など この1枚が命づな』大変重みのある見出しです。このことが、社会に広く「HELP カード」を知ってもらう第一歩でした。

その後、どうしたらもっと多くの人たちに、「HELP カード」を知ってもらい、理解をしてもらえるかを考え、福祉関係のイベントに参加し、「HELP カード」の周知活動をしてきました。

「HELP カード」を持たせても、障がい者がこのカードを持っているということを社会のすべての人達に知ってもらわないと、まったく無意味なカードになってしまいます。いざという時に、活用出来てこそ「HELP カード」本来の意味があるのです。カードのロゴマークを社会に広め、円滑なサポートの呼びかけと共に、障がい者への理解にも繋がたいと願って活動しています。



子ども達と一緒に呼びかけました



「HELP カード」PRDVD 撮影中

私達は、パンフレットやポスター、のぼり旗、パネル広告を手作り、障がいのある方が集う場所に出向き、パンフレットを配布し説明するなど、障がいのある子ども達と一緒に頑張りました。子ども達の頑張りが、私達親の強い力となりました。



「HELPカード」ポスター

「HELPカード」
PR DVD



配布用に作成した
パンフレット



「HELPカード」
掲示用大きな壁新聞

。「HELPカード」の今後

自然災害の猛威から命を守る術は、現状では私達の意識の改善であり、常にリスクを考え、不測の事態に備える心構えや準備だと思います。また、自ら行動する努力や勇気が大切だということもわかってきました。

現在「HELPカード」所持者は金沢市内在住の人が中心で、まだ1,600人程度と少なく、所持しない人の理由は個人情報に記載に抵抗を感じるもののようです。記載項目は、申込者が自由に決定できますが、個人情報の開示については賛否両論あるのが現状です。

「HELPカード」を使うような場面が、これから将来ないことを願っていますが、万一の時は何処にいても「HELPカード」が活用出来るように、全国的に普及してくれることが望ましいと私達は考えています。

決して、「HELPカード」だけが災害時のすべてを支える安心なツールではないけれど、命を守る手段になればと心から願っています。

最後に本文作成にあたり、高松外美子さんや金子聡子さん、高松昌一郎さんをはじめとする特別支援学校関係者の方々、金沢市様、石川県様に多大なるお力添えを頂いたことをここに感謝申し上げます。

